福岡市埋蔵文化財調査報告書　第847集

博多101

— 博多遺跡群第126次調査報告 —

2005

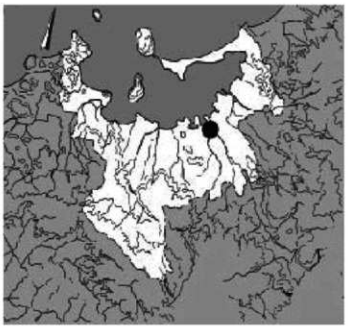
福岡市教育委員会

調査番号	0030			遺跡略号	HKT-126
調査地地番	福岡市博多区店屋町43・44番地			分布地図番号	49(天神)
工事面積	497㎡	調査対象面積	360㎡	調査実施面積	360㎡
調査期間	2000（平成12）年8月23日～2000年12月1日				

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第847

博多（はかた） 101

— 博多遺跡群第126次調査報告 —



調査番号　0030
遺跡略号　HKT-126

2005

福岡市教育委員会

序

福岡市は、その形成に長い歴史の道筋をたどって今に至っています。そのなかで、核となる地域のひとつが博多です。

博多はこんにちもなお活発な活動により日々変貌を続けています。その結果として、地下に残る先人の生活の一端が埋蔵文化財として日の目を見ることになりました。福岡市教育委員会では、工事によりやむなく破壊される埋蔵文化財については、記録による保存を図ることとし、博多遺跡群についての発掘調査を継続してまいりました。第126次調査もそれのひとつであり、本書においてその成果を公刊することとなりました。

ここに至るまでには、手嶋明子氏をはじめとする関係各位の多大なご理解とご協力があったことをここに記し、心からのお礼を申し上げます。

本書が、博多遺跡群についての理解を深めるための資料として資するところがあれば幸いです。

平成17年3月31日

福岡市教育委員会

教育長　植木 とみ子

はじめに

1　本書は、2000年度(平成12年度)、福岡市博多区店屋町43･44番地内において、福岡市教育委員会がおこなった、博多遺跡群第126次発掘調査の報告である。

2　発掘調査は、文化財保護法57条の２に基づく記録保存のための調査として、手嶋明子氏から福岡市が業務を受託し、併せて一部を国庫補助事業として教育委員会文化財部埋蔵文化財課が実施した。調査にあたって、手嶋明子氏を始めとした関係各位から種々のご協力とご配慮を頂いた。この場で深く感謝申し上げる。

3　発掘調査・整理・本書編集は、教育委員会文化財部埋蔵文化財課杉山富雄が担当した。遺物実測については一部大濱菜緒が行った。

4　出土資料および調査記録は報告後、福岡市埋蔵文化財センターに収蔵管理し、利用に供する予定である。

凡　例

1　位置の記録には、『博多地区遺跡基準点測量委託測量成果簿(1992日本測地系)』の成果を利用した。

2　報告中では、遺物、遺構に対して調査中の記録、整理作業に際して付した通し番号により表記し、これを登録番号とする。図中番号の表示において区分が必要な場合は遺構についてはM、遺物についてはRの符号を付す。

3　図中に用いる方位は、国土座標の座標北であり、真北から０度19分西偏している。

4　遺物実測図は、特に記さないかぎり、縮尺3分の１で図示している。その外の縮尺の場合は、遺物番号に続けてそれを付記した。

5　本文･表中、陶磁器の分類表記は下記によった。

横田賢次郎･森田勉　1978「大宰府出土の輸入中国陶磁器について」『九州歴史資料館研究論集４』〔文中「大宰府」で表記〕

本文目次

Ⅰ　博多遺跡群第126次調査の経過と概要
　1　調査に至る経緯 …… 1
　　埋蔵文化財事前審査 …… 1
　　発掘調査 …… 1
　2　発掘調査の概要 …… 3
　　調査地点の立地 …… 3
　　調査の経過 …… 3
　　土層と調査面 …… 3
　　出土遺構 …… 7
　　出土遺物 …… 7
Ⅱ　博多遺跡群第126次調査出土の遺構と遺物
　1　1面の遺構 …… 9
　　概要 …… 9
　　溝17 …… 9
　　溝24 …… 10
　　溝37 …… 10
　　溝42 …… 11
　　溝49 …… 12
　　遺構61 …… 13
　　土壙73 …… 13
　　土壙75 …… 14
　　溝95 …… 15
　　土壙102 …… 15
　　土壙105 …… 16
　　井戸106 …… 16
　　土壙171 …… 18
　　井戸172 …… 19
　　土壙174 …… 21
　　井戸183 …… 19
　　土壙188 …… 22
　　土壙194 …… 23
　　土壙213 …… 24
　　土壙214 …… 25
　　井戸215 …… 25
　　井戸216 …… 26
　2　2面の遺構 …… 27
　　溝126 …… 27
　　遺構132 …… 28
　　小穴226 …… 29
　　小穴227 …… 29
　3　3面の遺構 …… 30
　　土壙列133 …… 30
　　遺構178 …… 33
　　土壙列234 …… 35
Ⅲ　おわりに …… 37

挿図目次

図 1 博多遺跡群の位置(1/50,000) …… 1
図 2 第126次調査地点の位置(1/5,000)…… 1
図 3 1区1面の遺構(南西から) …… 2
図 4 2区1面の遺構(南西から) …… 2
図 5 1区南西壁土層(1/40) …… 3
図 6 1面の遺構(1/100) …… 4
図 7 2面の遺構(1/100) …… 5
図 8 3面の遺構(1/100) …… 6
図 9 1区2面西端の遺構(南から) …… 7
図10 2区3面の遺構(南西から) …… 7
図11 溝17·37·49(1/100) …… 8
図12 溝17(南から) …… 9
図13 溝17·24出土遺物 …… 9
図14 溝37(北東から) …… 10
図15 溝37出土遺物 …… 10
図16 溝42(1/60) …… 10
図17 溝42出土遺物 …… 11
図18 溝49土層断面(1/30) …… 11
図19 溝49(1区 北西から) …… 11
図20 溝49出土遺物 …… 12
図21 遺構61(1/8) …… 12
図22 遺構61出土遺物 …… 12
図23 土壙73(1/40) …… 13
図24 土壙73(南から) …… 13
図25 土壙73出土遺物 …… 13
図26 土壙75(南から) …… 14
図27 土壙75(1/40) …… 14
図28 土壙75出土遺物 …… 14
図29 溝95(1/60) …… 15
図30 溝95(北東から) …… 15
図31 土壙102(1/30) …… 15
図32 土壙102出土遺物 …… 15
図33 土壙105(南から) …… 16
図34 土壙105(1/40) …… 16
図35 土壙105出土遺物 …… 16
図36 井戸106(1/40) …… 17
図37 井戸106(北から) …… 17
図38 井戸106 出土遺物 …… 18
図39 土壙171(北から) …… 18
図40 土壙171 出土遺物 …… 19
図41 井戸172·183(1/40) …… 19
図42 井戸172(北から) …… 20
図43 井戸172出土遺物 …… 20
図44 土壙174(北東から) …… 20
図45 土壙174(1/40) …… 21
図46 土壙174出土遺物 …… 21
図47 土壙188(1/40) …… 22
図48 土壙188(南から) …… 22
図49 土壙188出土遺物 …… 23
図50 土壙194(1/40) …… 23
図51 土壙194 出土遺物 …… 24
図52 土壙213(1/40) …… 24
図53 土壙213出土遺物 …… 24
図54 土壙214·井戸215(1/40) …… 25
図55 土壙214·井戸215出土遺物 …… 25
図56 井戸215(北から) …… 25
図57 井戸216(北西から) …… 26
図58 井戸216(1/40) …… 26
図59 井戸216出土遺物 …… 26
図60 溝126(1/100) …… 27
図61 溝126(北から) …… 27
図62 溝126出土遺物 …… 28
図63 遺構132(1/10) …… 28
図64 遺構132出土遺物 …… 28
図65 小穴226(1/30) …… 29
図66 小穴226(北から) …… 29
図67 小穴226·227出土遺物 …… 29
図68 小穴227(1/30) …… 30
図69 小穴227(北東から) …… 30
図70 土壙列133·234(1/100) …… 31
図71 土壙列133(南西から) …… 32
図72 土壙列133出土遺物 …… 32
図73 遺構178(1/40) …… 33
図74 遺構178(北西から) …… 34
図75 遺構178出土遺物 …… 34
図76 土壙列234土層(南西から) …… 35
図77 土壙列234土層断面d(1/40) …… 35
図78 土壙列234出土遺物 …… 36
図79 調査出土遺物 …… 37

表目次

表1～8 報告遺物一覧 …… 37

Ⅰ　博多遺跡群第126次調査の経過と概要

1　調査に至る経緯

埋蔵文化財事前審査

1999年(平成11年)11月15日付けで博多区店屋町43･44番地内における共同住宅建築について、福岡市教育委員会に埋蔵文化財事前審査申請書が提出された。当該地は過去の工事計画に際して確認調査を実施していたが、障害物等により埋蔵文化財の内容の把握が不十分な状態であった。そこで、埋蔵文化財課では11月18日、再度の確認調査を実施した。

確認調査の結果を受け、当該計画の内容について、現状での保存措置の検討を行なった。しかし、計画内容から工事の埋蔵文化財への影響は避けられないものと判断し、やむなく記録保存の措置をとることとした。

発掘調査

記録保存のための発掘調査は、手嶋明子氏からの委託を受け、国庫補助を併せて福岡市教育委員会が実施することとなった。教育委員会では文化財部埋蔵文化財課を担当とし、2000(平成12)年8月23日から博多遺跡群第126次調査として現場作業に着手した。

発掘調査は、事業者からの現物提供による表土搬取り、表土搬出をまって8月23日人力による掘り下げに着手した。調査による廃土は場内処理としたことから調査区を2分割し、土砂を反転しながら進め、後半の2区の調査を完了し、機材を撤収したのは12月1日である。

調査は、矢板による土留め工事の提供を受けて、対象範囲のほぼ全体について行なうことができた。調査面積は矢板工の範囲で360㎡調査となった。

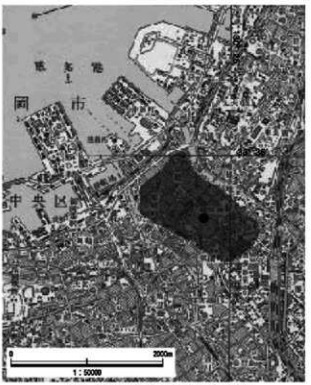


図1　博多遺跡群の位置(1:50,000)

図2　第126次調査地点の位置(1:5,000)

図3　1区1面の遺構（南西から）

図4　2区1面の遺構（南西から）

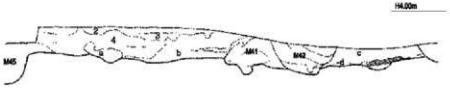


図5　1区南西壁土層(1/40)

2　発掘調査の概要

調査地点の立地

本地点は、現況の微地形では海側から2列目の微高地Ⅱ[11]の海側(西)斜面に位置する。埋没地形からみると、砂丘Ⅱのうち、海側の孤立した砂丘列の後縁上の位置を占める。調査区の地山高は標高3mを前後する位置にあり、この復原値に整合する。後述するが、周辺調査で検出された溝の勾配はこの旧地形を反映されたものとなっている。

調査の経過　調査対象地は、現在の町割に沿い、軸を北から43°東へ振れた方向にとっている。形状は間口17m、奥行き28mの一端を欠く矩形をなしている。調査に際しては、表土の搬出後に生じた廃土は場内処理としたことから、調査区を間口から見て縦割りとして土砂を反転しながらの作業となった。まず北西半部を1区として調査し、廃土の反転後残りを2区として調査を行った。ここで、現場の仮設事務所が間口の半ばを塞ぐ用の位置に設置されたことから、重機の進入路を確保する必要から、2区の出入口部に三角形の未調査部が残ることとなった。

表土の剥取りは事業者により行われたが、担当者が立会し、遺構面を確認しながら作業を進めた。調査区の中央部から北東部分に攪乱が分布しており、なかには井戸の掘形よりも大規模なものが含まれ、遺構が島状にしか残っていない部分があった。現在の地盤高は、標高5.2m、試掘の成果から3.6mの位置に開始面を設定した。しかし、攪乱の剥取りにより、調査区北東部では、当初予定した位置よりもやや深い位置から調査を開始した

土層と調査面　1区南西壁の土層を図示する。調査開始面までの土層は黒褐色の粘質土若しくは攪乱である(1層とする)。調査開始面としたのは暗褐色砂質土で、攪乱によるものか調査区南西部に分布したのみである(全体として南西部の土層がよく保存されていた)。この位置では0.1mの厚さが残る。

1区南西部では2層が深くなっており、この部分を3層として掘り下げた。4層とするのは褐色から黄褐色を呈する砂層である。地山砂層を不整合に覆う。4層には縞状の生成物が分布する。

調査は2層上面を1面として開始した。この位置では遺構は不明瞭であり、遺構検出は2層を掘り下げながら行った。結果として1面の遺構として調査、記録したのは下位の4層上面に至るまでに確認した遺構である。したがって、覆土の状態(個々では縞状化の有無)などを検討すると、下位の遺構と判断できるものが多々ある。2面の遺構としたのは4層上面で検出した遺構と4層をある程度掘り下げた位置で検出した遺構である。覆土は縞状化の影響を受けている。3面の遺構は4層下、地山面の遺構である。4層は3面の遺構を直接覆っており、自然の営為とは考えられない。人為的な客土の可能性がある。

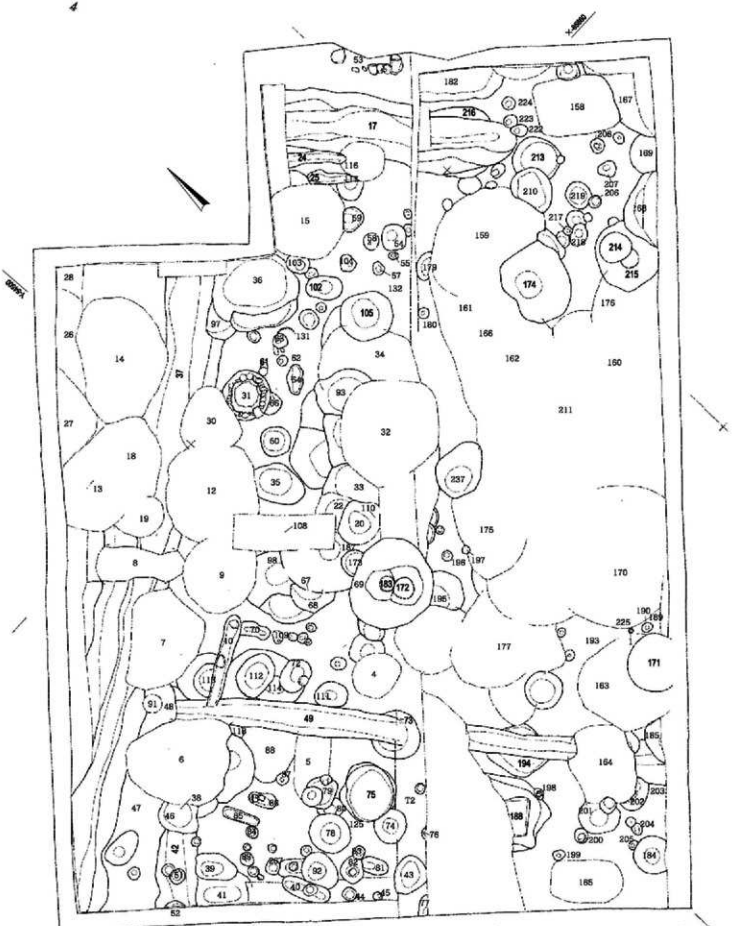


図6　1面の遺構(1/100)

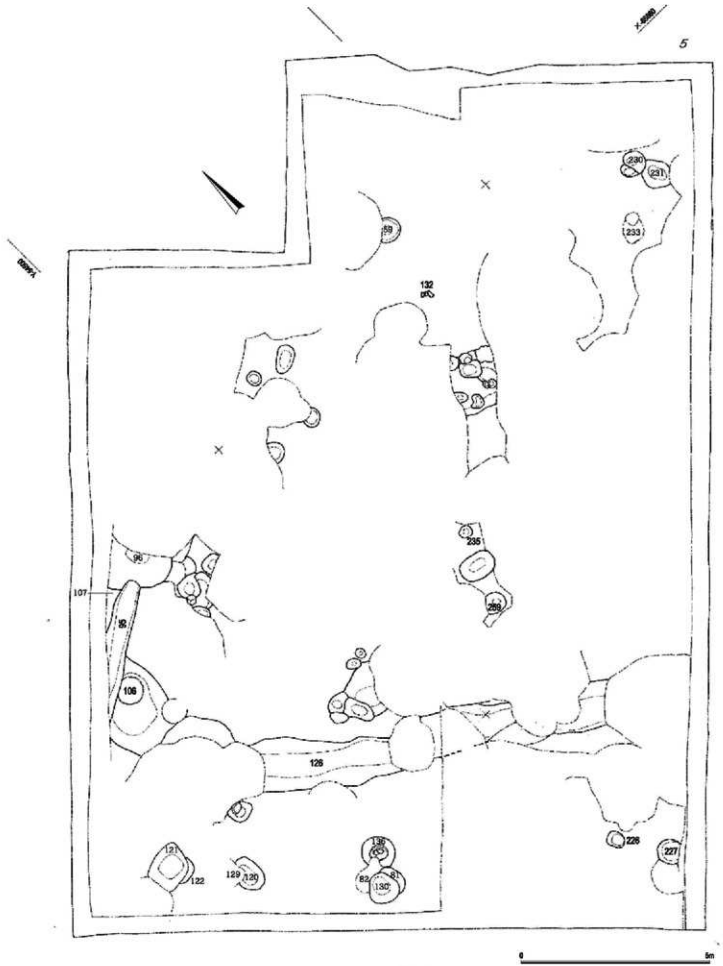


図7　2面の遺構(1/100)

図8　3面の遺構(1/100)

図9　1区2面西端の遺構（南から）

出土遺構　台帳に登録した遺構は近世以降のものを除いて約230基である。このうち第1面とするものが大半を占める。第2面、3面の遺構は少数である。根石、柱痕跡などにより柱穴とわかる遺構はごく少ない。土壙としたものは110余あるが、連接して遺構を構成する単位を含む。また、円筒形で、顕著な灰層を形成する土壙が含まれる。井戸は1面で4基、溝は1面と2面で6条を調査した。

出土遺物　総量でコンテナ110箱ほどの分量となった。大半は土師器坏皿の類と白磁を主体とした輸入陶磁器で占められる。奈良時代の遺物も顕著である。金属器、銅銭が少数出土した。

(1)磯望・下山正一ほか1998「第4章　博多遺跡群をめぐる環境変化」『福岡平野の古環境と遺跡立地』pp.69-112

図10　2区3面の遺構（南西か

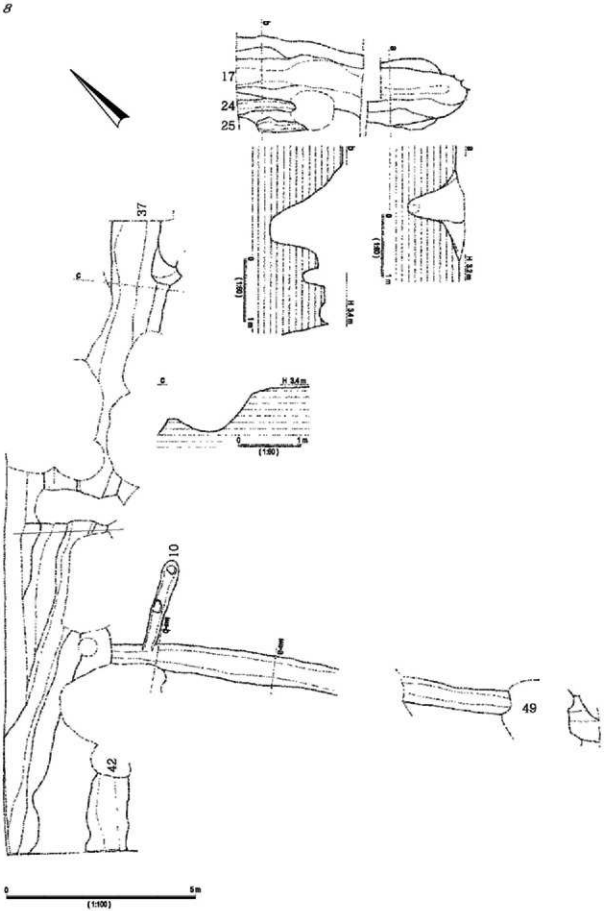


図11　溝17·37·49(1/100)

II　博多遺跡群第126次調査出土の遺構と遺物

発掘調査は3面の遺構面について行い、記録したことで、調査面に従い報告する。1面の遺構については下位の遺構を少なからず含んでいるが、今回全てについて検討するに至らなかった。また、作業上、下位の遺構面で調査、記録した遺構がある。これについては数が少ないことから本来の遺構面で報告する(1面)。遺構は登録番号順に配列し記録する。遺物の詳細については、巻末表による(表1～8)。

1　1面の遺構

概要

先述したように調査区中央部を中心としたかなりの部分が攪乱を受けている。特に、2区は半ば以上に攪乱が入り、特に1面の遺構を中心に破壊されている。現状の地割りに沿うものを含む溝(17·37·42·49·95)、井戸(106·172·183·215·216)がある。土壙は多数あるうちで、調査区中央では楕円形、鉢状の断面の土壙が密に重複する状態で検出された。長さが1～1.5mほどの規模である。覆土は黒褐色砂質土。通常円筒状で厚い灰層が堆積する類の土壙は調査区南部を中心に散布する(75·105·171·174)。

柱穴として建物を復原できる遺構は確認していない。調査区東部、南西辺部では底面に礫を敷くもの、柱痕跡をもつものを散見する。南西辺の一群は、楕円形で軸を揃えて配列しており、一部に柱痕跡、根石がのこり建物を構成する可能性が大きい。

図12　溝17(南から)

溝17（図11·12）

調査区北東辺沿いで検出した。調査区内から始まる溝である。幅は1.5m、断面は深い逆台形状を呈する。上端部は大きく開いて自然の崩落により埋没していたこと、往時の生活面に近い部位まで遺存していた可能性を示している。深さは先端部で0.8m、

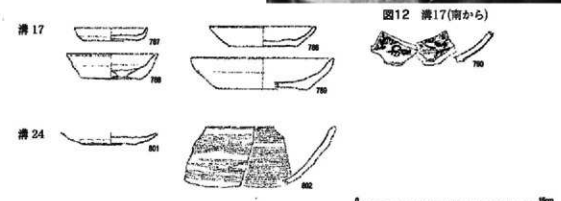


図13　溝17·24出土遺物

北端の最も比高のある位置では1.1mを測る。溝の方向は北から33°西へ振れている。上部の覆土は黒褐色の細粒の泥土で、流水の無い景観のなかで埋没したことを示している。中位に獣骨が散布する部位がある。

出土遺物(図13)　総量でコンテナ1箱ほどの分量出土した。完形の資料を含むが、大部分は細片の資料である。総量の半ばは土師器坏皿。獣骨が混じる。

染付を含む陶磁器，口縁部が大きく開く土師器坏、土師質の擂鉢が含まれる。

図14　溝37(北東から)

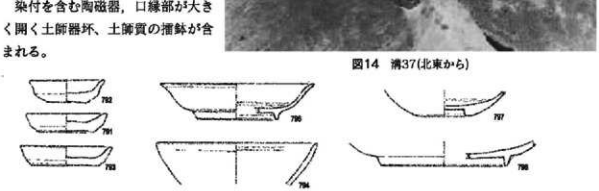


図15　溝37出土遺物

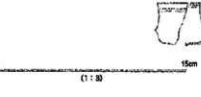


図16　溝42(1/60)

787・788・786は土師器糸切り底皿である。器形は各種ある。789は土師器糸切底坏である。

790は染付碗底部付近の体部細片である。内外面に文様を、内外面に圏線を描く。

溝24(図11・12)

溝17の西に沿って走る。溝25も平行して走る。断面は逆台形状、幅はともに0.3m、深さは溝25の0.1mに対して溝24は0.3mを測り，規模に比して深い。覆土は黒褐色の粘質土で、全体に一様である。崩落などの痕跡は無い。

出土遺物(図13)　小量が覆土中から散漫に出土した。801は糸切底坏の底部小破片である。802は瓦器碗である。口縁端内面に凹線状の段がある。

溝37(図11・14)

調査区西辺部を南西方向に走る溝である。断面は逆台形状で、幅は部分で異なるが、断面位置で1.2m、深さは0.6mを測る。東北部分では北西方向に広く泥質の黒褐色土が広がり、溝の埋没状況を示しているように思われる。1区北東壁の土層から溝37は砂質の黒色土の中に一様な泥質の覆土とし

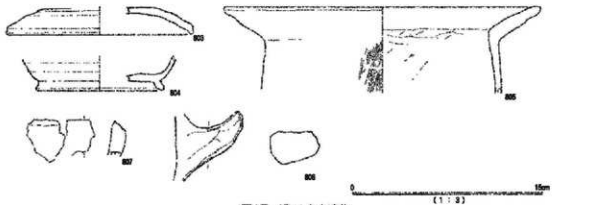


図17　溝42出土遺物

て確認できる。この黒色土は幅3.5mの広さに広がっており、南東岸が高く、北西側が一段低い地形の部分に堆積したものと思われる。このような景観は、本地点が立地する微地形とよく一致する。溝の方向は北から59°東へ振れている。これと溝17の方向とは、ほぼ90°で調査区外で交わる位置関係となる。この場合交差していれば溝37の一部が調査区に現れるはずであり、それが無いことで、溝17から屈曲して溝37につながるものと推測できる。

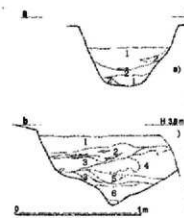


図18　溝49土層断面(1/30)

図19　溝49(1区 北西から)

出土遺物(図15)　総量でコンテナ2箱ほどの分量出土した。小破片までの資料で、覆土中から散漫に出土した。土師器坏皿は糸切底で体部が大きく開く坏がある。皿は792・791・793を図示する。小形で器高の大きな個体がある。陶磁器には染付が含まれる。小形で器高の大きい皿がある。陶磁器には染付皿(796・797)、碗(794・795)がある。796は内底面、体部の外面に施文する。798は白磁皿である。備前系陶器には大形の甕がある(799・800)。極細片の資料である。

溝42(図16)

調査区北西隅、現地割りに平行するように北東方向に走る(N42°E)。調査区西南壁から2mまで確認したのみである。幅1.1m、深さ0.5m、断面は逆台形状を呈する。覆土は黒褐色砂質土で、重複する遺構より古い。

出土遺物(図17)　覆土中から散漫に小量出土した。極少数の陶磁器・瓦のほかは土師器、須恵器である。

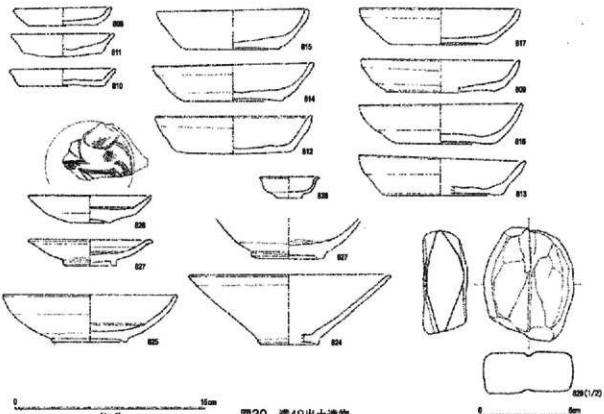


図20　溝49出土遺物

奈良期までの土器は遺存状態が良好なのに対して以降の土器は極細片でややすれが認められる傾向がある。

803・804は須恵器、805・806は土師器、807は製塩土器口縁部細片である。

溝49(図11・18・19)

調査区西南辺に沿う。方向は北から37°西へ振れている。幅は0.7m、断面は逆台形状を呈し、深さは0.6mを測る。底面の高さは底面の標高は北西端と南東端と極端に変わらないが、あえて言うならば、南東方向にわずかに傾くといえる。土層断面からすると、流水があったことが窺える。

出土遺物(図20)　遺物は覆土中からコンテナ2箱ほどの分量出土した。土師器坏皿類、中大形陶器類が多い。次いで小形陶磁器が占める。小形の土師器のほかには白磁碗・皿類がある程度の纏まりがある。他は、各種各様の土器陶磁器が少量づつ認められる。

土師器坏・皿は全て糸切底である。826・825・827は白磁、627・824は高麗青磁である。829は石鍋を転用して石錘としたも

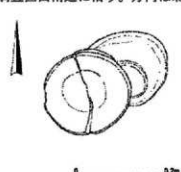


図21　遺構61(1/8)

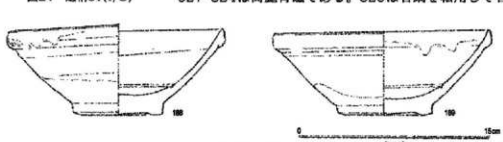


図22　遺構61出土遺物

のか。

遺構61(図21)

調査開始面の黄褐色砂層(4層?)上面で検出した。白磁碗が2点重なり合うようにして出土した。掘形は検出できなかった。調査面に露出していることから移動などの影響を受けている可能性があるが、散乱などしていないことから本来埋置されていたものであろう。

出土遺物(図22)　ともに白磁碗で、大宰府Ⅳ(1a)類とできよう。188は亞みが大きいが、ほぼ同形同大である。

土壙73(図23·24)

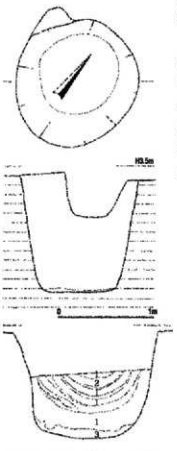


図23　土壙73(1/40)

図24　土壙73(南から)

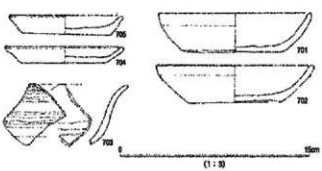


図25　土壙73出土遺物

溝49と重複し、それよりも古い。円筒形の土壙で、径1.3m、深さ1.3mを測る。覆土は砂味の強い黒褐色粘質土で、大きくたわんだ灰層を縞状に挟んでいる。

出土遺物(図25)　コンテナ2/3ほどの分量が出土した。覆土中から散漫に出土したほかに完形の土師器坏が投棄されたような状態で出土した。溝49と重複していたため上部の遺物は溝49の遺物として取り上げている可能性が大きい。遺物の構成は以下の通りである。

土師器坏皿が2/3を占める。各時代のものが混じるが、最も遺存状態の良好な資料は糸切底のものである。底面の板目の有無がある。他は舶載陶磁器が多くを占める。小形陶磁器では白磁玉縁の碗が圧倒的に多い。中·大形製品は各分類のものが少量づつ混じる。いずれも小破片までの破片で、細片が多い。

土師器皿705·704、坏701·702はいずれも糸切底である。碗の細片資料703は焼成から須恵器とみえる。外面の上部では周回方向の篦磨き調整(粗い)、下部では回転篦磨き調整、内面には上

部に撫で調整後、下部に周回方向の箆磨き調整を行なう。胎土は精良で夾雑物無し。器表は灰色を呈す。

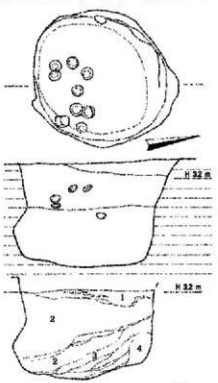
土壙75(図26・27)

土壙73に近接して西に位置する。平面形は楕円形で、断面では底部近くの片側の壁が抉れてやや袋状を呈す。長さ1.5m、幅1.3m、深さ1.1mを測る。他の同形状の土壙とは異なり、覆土に灰層を挟まない。覆土は黒褐色、砂混りの粘質土である。底部近くでは、片側から覆土が流れ込んだような状態を呈す。

出土遺物(図28)　コンテナ1箱ほどの分量出土した。一部の土師器坏は、図示するように投棄されたような状態で出土した。

遺物の大部分は上記の様な完形の土師器坏を含む坏皿の類である。ただし、皿の資料は極少量である。陶磁器は極少量で、かつ細片資料である。白磁に玉縁碗、皿、水注がある。青磁類はない。図示する土師器坏は全て糸切底である。法量をみると、

図26　土壙75(南から)



1 暗褐色土(10YR3/3)砂混りで、黄褐色(10YR5/6)のレンズ状の層・ブロックを含む
2 黒褐色土(10YR2/3)、砂混り、粘土球強い
3 暗褐色土(10YR3/3)、砂を多く含む
4 褐色砂(10YR4/6)砂・ブロック、壁面からの崩落か

図27　土壙75(1/40)

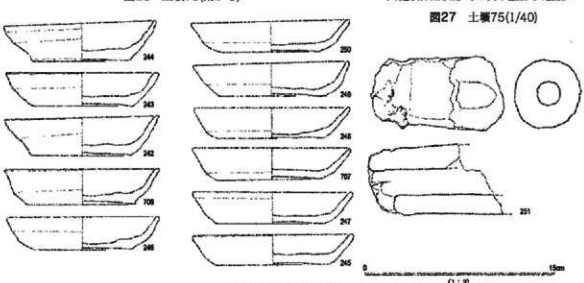


図28　土壙75出土遺物

値のばらつきが大きいことがわかる。口径の平均は125mm、値の幅は129～122mmとなるが、資料数は125mm以下に偏る。底径は平均81mmで値の範囲は86～75mmとなるが、78～84mmあたりに多い。口径と底径の間には相関関係を見いだせないが，口径と器高との間には、口径小の資料が器高が大きく、口径大の資料が器高が小であるという負の関係が見られる。輪羽口251は中央部で径56mm、

図29　溝95(1/60)

図30　溝95(北東から)

孔径22mmを測る。先端部は溶融する。

溝95(図29･30)

調査区北西辺、溝37に沿い、重複して古い。南西半部では掘形を確認したが、北東半部では溝37の覆土の広がりのなかで不明瞭となり、北東壁では溝37と一体となり判然としない。遺存部で幅0.7m、断面は逆台形状で深さ0.3mほどである。覆土は黒褐色泥質土で溝37と同質である。北東壁では溝95の延長上にあたる縞状の砂の堆積が見られるが、覆土が全く異なり、別の時期の溝があるものか。

出土遺物　小量が覆土中から散漫に出土した。2/3が土師器坏皿、残りが陶磁器、瓦である。陶磁器には染付(小野C群)が含まれる。ほかに白磁玉縁碗、龍泉窯系青磁碗、高麗青磁碗の細片が含まれている。また、奈良時代の把手付の甕の細片も出土した。

土壙102(図31)

平面形が楕円形の深い遺構である。長さは1.0m、幅0.6mを測る。断面は逆台形状を呈し、深さは1.0mを測る。覆土は黒褐色土で灰、炭を顕著に含む。

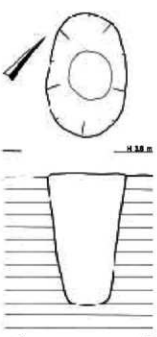


図31　土壙102(1/30)

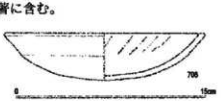


図32　土壙102出土遺物

出土遺物(図32)　小量出土した。土師器丸底坏(708)は大破片の資料である。

土壙105(図33・34)

平面形は不整な円形状、断面は逆台形状で底部が丸みをもつ。径は1.4m、深さ1.3mを測る。覆土は灰層と黒褐色土とが互層を成し、中央が大きくたわみこむ。灰層には焼土を含む部位がある。底面にも灰層と思われる灰黄褐色土が壁に沿って堆積している。

出土遺物(図35)　コンテナ1/3程の分量が出土した。小破片までの資料が主であるが、遺存状態は良好である。1/2が土師器坏皿の資料で、うち皿が顕著である。次いで輸入陶磁器が占め、残りは須恵器、瓦が混じる。

710・709・711は篦切底で、板目が残る。底部から口縁端にかけて全体に厚い。口径は89ないし93mm、底径は67ないし70mmを測る。

714は白磁皿(大宰府Ⅳ類)、712・713は白磁碗(大宰府Ⅱ類)である。715・716は須恵器蓋である。上面に回転篦削り調整を行い、つまみを貼り付ける。

図33　土壙105(南から)

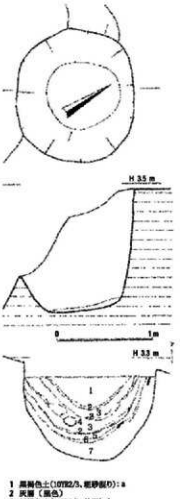


図34　土壙105(1/40)

井戸106(図36・37)

調査区北西壁に沿った位置で検出した。長さ2.3m、幅1.8mを測る楕円形掘形の井戸である。井戸側は北に偏った位置で検出した。掘形は褐色砂に黒褐色砂質土粒が混じる埋土で埋める。断面は鉢

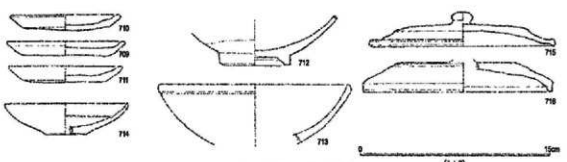


図35　土壙105出土遺物

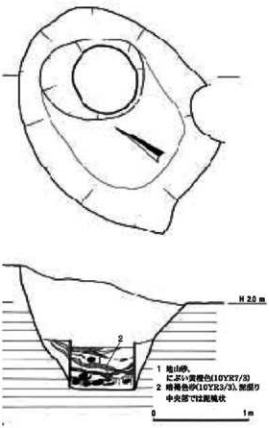


図36　井戸106(1/40)

形で、深さは井戸底面までが1.3m(標高0.7m)を測る。井戸側は標高0.8mの位置で検出した。井戸側底部付近が湧水点となる。ゆがんだ円形状で、径0.7m程の規模である。構築材は殆ど腐朽していたが、木材の繊維が縦方向に残ることから桶形のものであったことがわかる。井戸側は黒褐色粘質土と黄褐色の地山砂の互層で埋まる。これらの層は井戸側北側からの流れ込みで形成されている。井戸側内の井戸底面近くでは礫、土器片がまとまって出土したが、あるいは意図的に投棄されたものか。

出土遺物(図38)　遺物は井戸側底面でまとまって出土したものを含んでコンテナ1箱ほどの分量出土した。細片から小破片の資料であり、なかに大形陶器の破片が1/3を占め、次いで瓦が多い。小形の土器類は全体の1/2以下の割合であった。

土師器は痕跡程度の分量で、細片資料のみあった。篦切り底皿、糸切底坏がある。

小形の陶磁器では白磁が最も多く出土した。碗では大宰府Ⅳ類(771)が主で、他は痕跡程度の量比である。碗に大宰府Ⅴ類、Ⅵ類、更に大宰府Ⅵ類がある。青磁には高麗青磁坏かとみえる資料がある。陶器の資料では1個体資料が大半を占める。大形の短頸壺773である。口縁は直立し、端部外方に折り返す。胴部上部に低い突帯とそれに接して沈線を施す。内面には叩き目を残し、内外面に掛かる。

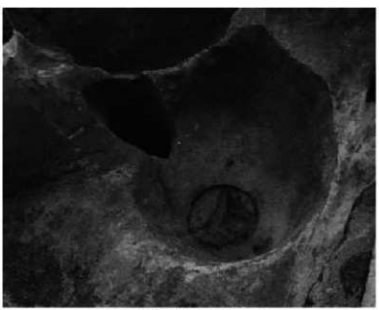


図37　井戸106(北から)

釉はガラス状光沢をもち、くすんだ黄赤色を呈す。口縁部径422mmを復原できる。

瓦は丸瓦がある。図示する774は前端部の資料である。凹面に布目圧痕がのこる。凸面では周回方向の撫で調整後縦方向の撫で調整を行う(面を形成)。775は後端部の細片資料である。凹面では布目圧痕上に部分的に縦方向の撫で調整痕が残り、凸面には縦方向の撫で調整が行われて多面体状を呈する。端部は、未乾燥時立てていたことで荷重により凝部が膨らみ、端面が平滑となる。

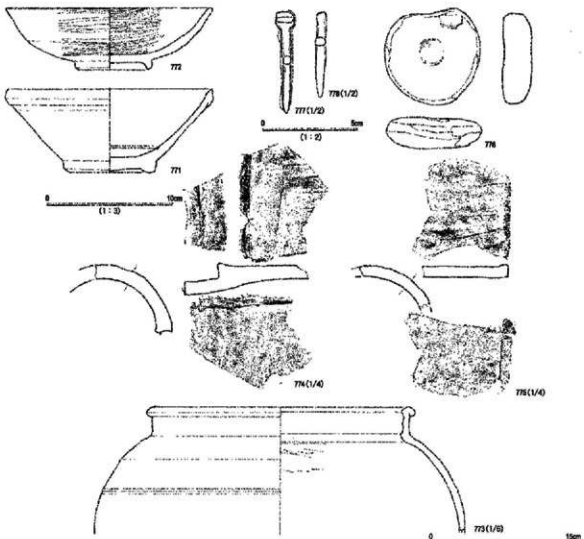


図38　井戸106出土遺物

図39　土壙171(北から)

鉄製品777・778は釘状の資料であるが、頭部は平たく潰れている。

776は叩石である。

土壙171(図39)

調査区南東辺にかかり、井戸抜き跡163により破壊された結果、半割されたような状態で一部が遺存していた。しかし、降雨による冠水により崩落したため、遺構の詳細を調査することができなかった。土壙171の形状は全体として円筒形で、底部付近が抉れている。上部は漏斗状に開き自然に堆没した状態にあったことが推測される。底部には灰層が厚く堆積する。この部分を中心に白磁碗・皿が大破片あるいは完形で出土し、灰とともに投棄されたような状態を示している。

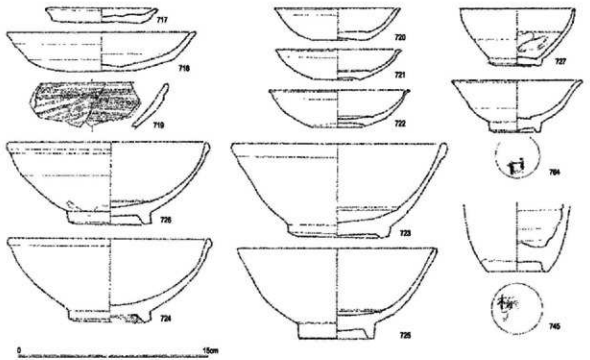


図40　土壙171出土遺物

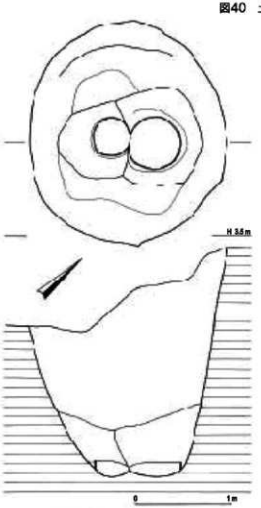


図41　井戸172·183(1/40)

出土遺物(図40)　上記のように完形資料を含みコンテナ2/3箱ほどの分量出土した。大部分は細片の土器片である。遺物の構成は、輸入陶磁器が1/2、次いで奈良時代須恵器が占め、土師器坏皿の類は小量である。土師器皿は糸切底(717)、土師器坏は丸底である(718)。719は瓦質土器碗の細片である。口縁端内面に沈線がある。外面の口縁をやや下った位置に段がある。白磁には完形または全形を復原できる資料が多い。726·724·723·725は白磁碗、720～722·764は白磁皿である。720～722は同型式の皿で、底面をやや上げ底状とし断面三角形の極低い高台を形成する。ほぼ完形で出土した。764は高台内に墨書が残る(「口」?)。727は杯で内底面を一段窪める。体部内面中位に1状圏線を入れ、それの下位に細い篦描きの文様を描く。745は壺底部付近の破片である。碁笥底の外底面に墨書が残る。

井戸172·183(図41·42)

井戸172は平面形がやや楕円形状で、底の丸い筒状の掘形をもつ。確認面で長さ2.3m、幅2.0m、井戸底面までの深さ2.4mを測る。井戸側痕跡が、掘形の北に寄った位置で確認でき、それを追って掘り下げたところ、底面近くで北に接した位置に

別の井戸側痕跡(井戸183)を確認した。調査面で重複関係は判然としないが、井戸172の井戸側は掘り下げ中に検出し、中に礫が投棄されていることも確認できていたことから、井戸172の掘形が183より新しい遺構と判る。井戸183の掘形は井戸172と重複して判然としないが、同形状のものか。

井戸172では底面近くにわずかに木質が残り、縦方向の繊維が観察されることから井戸側は木桶であったことが判る。井戸側内の覆土は白色砂で、下端よりやや下の位置に湧水点がある。下端部で標高0.5mの高さである。

図42　井戸172(北から)

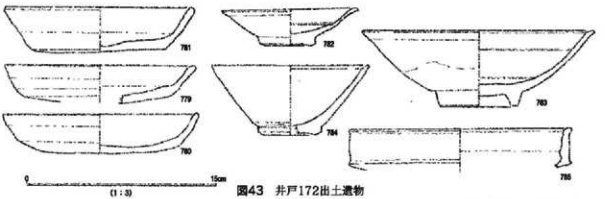


図43　井戸172出土遺物

図44　土壙174(北東から)

井戸183の井戸側は、木質が殆ど痕跡として残るのみである。これも繊維の方向の観察から曲物であったと判断した。井戸172と同様井戸側内は白色砂で埋まる。井戸底面の高さは井戸172と同じ高さである。

出土遺物(図44)　井戸172からは、大破片の土器を含みコンテナ1.5箱ほどの分量出土した。大半は細片の資料である。井戸183からは、底部のみを確認したこともあって、磨滅した極細片の土器が極小量出土したのみである。

井戸172出土土器のうち、2/3が陶磁器が占める。そのうち大形の

陶器が2/3、残りは白磁を主とした小形の磁器である。残り1/3が土師器坏皿、須恵器となる。

土師器坏は篦切底(779)・糸切底(781・780)がある。底面がやや押し出されて丸みをもつものがある(779・780)。口径は151～155mmである。皿は細片のみの出土で糸切底の資料である。

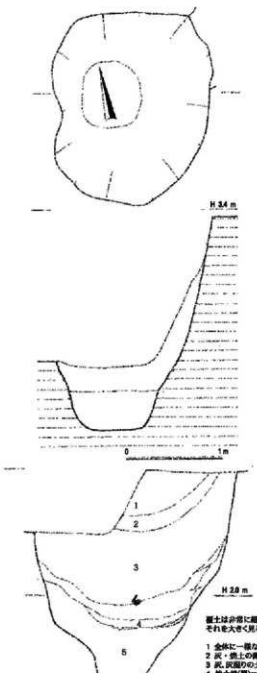
白磁碗は玉縁(大宰府Ⅳ類)の資料が大半を占めるが、Ⅴ類(783)・Ⅷ類の資料もある。皿は782に示すほかに大宰府Ⅶ類がある。小形陶磁器では青白磁皿、天目釉陶器碗(784)が出土している。

785は土師器二重口縁壺の細片資料である。このほか、須恵器高台坏、甕が出土している。

土壙174(図44・45)

ごみ穴159・162等により攪乱を受け、一部が遺存する土壙である。上部の大半が破壊されて平面形がよく分からないが、楕円形状か。断面では深鉢状を成し、底部近くで一段深くなるような形状となる。これは井戸の掘形によく似ている。現状で長さ2.2m、幅1.7m、深さ2.2m測り、底面は標高1.1mの位置にある。

覆土は灰・焼土をレンズ状に含んだ縞状の堆積があり、非常に細かく分かれるが大きくは5層に区分できる。上部を除き、混ぜ返されたよう黒褐色の砂質土が主体を占め、間に灰層、焼土粒の層が挟まっており、土壙内に人為的に投棄された状態を示している。焼けた砂も見られる。覆土中には骨片が含まれる。この堆積構に通有であるが、各層は底部に向かい大きく



覆土は非常に細かく分けることができるが、灰(炭)、焼土、灰 混りの土の堆積が凹レンズ状に堆積していることによる。それを大きく見ると5層位に分けることができる。

1 全体に一様な砂質土　黒褐色(7.5YR3/2)
2 灰・焼土の薄層に、砂ブロックが挟まる(褐色　7.5YR)
3 灰、灰混りの土、焼土の薄層。土は混ぜ返された状態で骨片等を含む凹状状。全体として黒色～黒褐色
4 焼土混(層)～粘土塊を多く含む　では砂質土(同褐色　7.5YR3/2)が層状
5 砂質(混ぜ)混されても、黒褐色(砂質土の薄層、間層を挟む)　(にぶい黄橙色　10YR7/3)

図45　土壙174 (1/40)

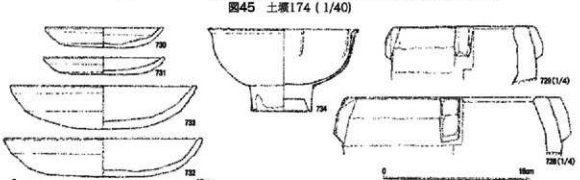


図46　土壙174 出土遺物

たわんでいる。最上部には黒褐色の砂質土がのる。これは全体に一様な堆積を示しており、最終的に埋め立てた層とも見做せるのではないだろうか。

出土遺物(図46)　遺物はコンテナ1箱ほどの分量出土した。土器は大破片の資料を少数含む。小形の土師器と小形の輸入陶磁器が同量あるが、大部分細片ないし小破片資料である。

土師器には丸底皿(730・731)、丸底坏(733・732)がある。

陶磁器は白磁がある。細片の資料が大半で、碗では大宰府Ⅳ類が主である。他にⅤ類がある。734は全形を復原できる資料である。体部は極薄く、高い高台外面まで施釉する。口縁端に刻みを入れて輪花とする。内面には体部中位までの隆帯を貼り付ける。

以上の他、瓦器碗・壺?、鉄製釘と見られるもの、鞴羽口がある。

石鍋も、複数個体が出土した。729はやや小形のもので復原口径128mmとなる。728は復原口径230mmで、ともに728口縁端から縦方向の把手を付ける。728では2対の把手を復原できる。外面は周回方向に削り、内面は研磨される(使用痕も混じるものと思われる)。728の内面には成形時の左下がりの整痕が残る。

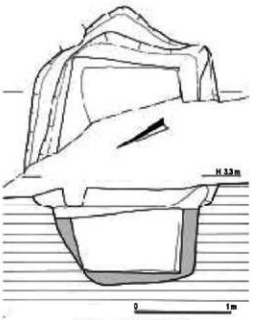


図47　土壙188(1/40)

図48　土壙188(南から)

土壙188(図47・48)

出入口部の未掘部分に一部が掛かる。不整な形状の掘形をもつ遺構である。確認面掘形とその内側におそらく長方形となる覆土の広がりを検出した。これを掘り下げたところ、底部がやや内側にせり出す箱型の形状となった。その壁は各面が平らで、圧痕などは残っていないものの木製の板を当てて箱型の枠で土留めした構造となっていたことが推測できる。覆土もこれに沿っているような縞状の堆積を示している。下半部に灰層を主とした堆積が見られる。掘形はやや掘り下げた位置では隅円の長方形状となり、上部の不整な形状は埋没の下底で崩落した結果かと考えられた。上部の広がりで幅2.0m、掘形の形状を留める部分で1.5m、深さは1.0mを測る。箱型の枠部分は上端部で幅1.0m、下端部で0.9m、深さ0.9mを測る。

出土遺物(図49)　遺物は枠内覆土中からコンテナ1/2ほどの分量出土した。土器では全形を復原できる資料を含むが、大部分は細片資料である。土器類では全体の1/2は土師器坏皿が占め、次いで白磁碗を主とした陶磁器が1/4程の分量ある。残りは古墳時代から奈良時代に掛けての土師器・須恵器が含

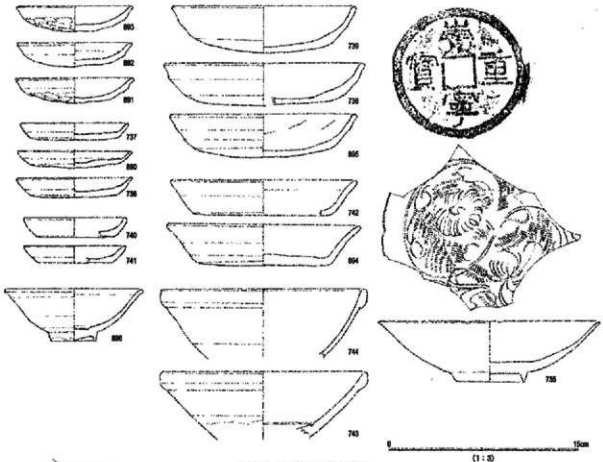


図49　土壙188出土遺物

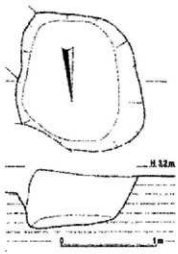


図50　土壙194(1/40)

まれている。

土師器皿には、底部が丸底(893・892・891)、篦切底(737・890)、糸切底(736・740・741)の資料がある。坏では、底部が丸底(739・738・895)と糸切底(742・894)の資料がある。

陶磁器の主体は白磁で大宰府Ⅳ類の碗が大部分を占めている。遺存は小破片にとどまる(744・743)。896は白磁皿である。完形で出土した。陶磁器にはさらに青白磁皿(735)、中大形の陶器細片資料がある。本調査地点では数少ない銅銭も本遺構から出土した。「崇寧重寶(初鋳1103年)」で完形である。

掘形埋土からは須恵質の丸瓦が出土した。粗い格子目叩き調整をおこなうものである。

土壙194(図50)

不整な隅円長方形の土壙である。溝49と重複してそれよりも古い。覆土は黒褐色砂質土である。長さ1.4m、幅1.3m、深さ0.6mを測る。

出土遺物(図51)　覆土中からコンテナ2/3箱ほどの分量出土した。土器には完形の資料を含む。

土師器皿は糸切底である(746・756・754・755・747・748)。法量、特に口径は平均89mmに集中する。底径は平均69mmで、値がごく集中する。土師器坏は糸切底で大形である(749・753・750・751・752)。口径は個体差が大きく、平均160mmのところ最大値170mmに対して最小値151mmとなる。底径は個体

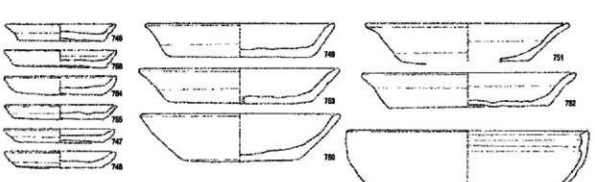


図51　土壙194出土遺物

差は小さくなるが平均108㎜のところ最大128、最小90㎜となり、値の分布が皿と対照的に散漫である。土師器坏750は他個体と異なり、体部が大きく開き器高大である。

小形の陶磁器には白磁碗・皿がある。碗には大宰府Ⅳ類・Ⅴ類、皿には大宰府Ⅳ類資料があるがいずれも細片である。中大形の陶磁器も出土した。磁窯系陶器盤のほか、捏鉢、甕といった器種がいずれも細片で出土した。このうち、捏鉢757を図示する。復原口径255㎜となる。

このほか、何らかの構築材かと思われる焼土、奈良時代の須恵器に坏・蓋・瓶・甕等の器種がある。

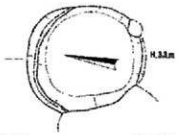


図52　土壙213層(1/40)

土壙213(図52)

平面では円形状、断面径が袋状を成す。径1.1m、深さ0.5mを測る。同様袋状の土壙210と重複してそれよりも古い。覆土は全体に一様な

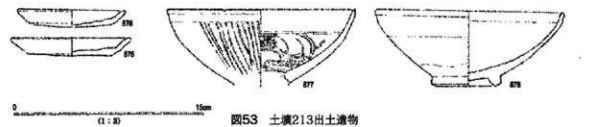


図53　土壙213出土遺物

土壙210とは異なる。覆土の上部は黒褐色土と土混りの灰層との互層で、灰層を挟んで混ぜ返されたような状態を示している。下部覆土は灰黄褐色土で水の影響を受けて堅く締まったような状態を示している。このことから、下部層の生成後、人為的な土砂の投棄により埋没していったことが推測できる。灰層複数枚挟むことから、それが断続的な土砂の投棄によった可能性もある。

出土遺物(図53)　遺物はコンテナ1/3程の分量が、覆土中から出土した。大破片までの土器資料を含む一方、半ばは極細片の資料である。

土師器は殆どが極細片資料であるが、皿に遺存状態が良好な資料があった。Ⅲ876・875は糸切底である。口径は87㎜、97㎜と差がある。

陶磁器では白磁碗に大宰府Ⅱ類、Ⅳ類の資料がある。

青磁には同安窯系の碗(大宰府Ⅰ-1-a類)、及び高麗青磁がある。877は同安窯系青磁碗の上部破片である。本地点では青磁自体の出土量はごく少ないが同安窯系青磁についても比較的遺存状態の良

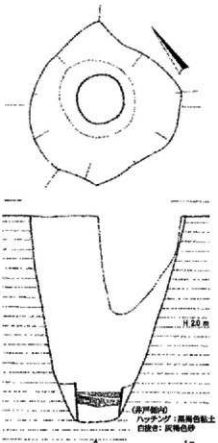


図54　土壙214・井戸215(1/40)

い資料はこれのほかに1遺構があるのみである。

ほかに、陶器、東播系須恵器かと思われる細片資料もある。さらに、須恵器高台坏等も混じる。

土壙214(図54)

井戸215と重複してそれよりも新しい。掘り下げ開始時点では、両者を区分できなかった。覆土が井戸215と異なり、黒褐色砂質土と灰層の薄層が縞状に重なる。底部がすぼまる断面形を呈し、平面形は楕円形状と復原できる。長さは推測できないが、幅が0.9m前後となる。深さは0.9mを測る。

出土遺物(図55)　遺物はコンテナ1/3ほどの分量が覆土中から出土した。大部分が細片資料であるなかで、土師器、白磁に大破片の資料が含まれる。土師器が1/3、小形磁器を主とする陶磁器類が1/3を占める。土師器皿は糸切底である。口径は95㎜、底径72㎜、器高15㎜を復原できる。白磁碗には大宰府Ⅳ類・Ⅴ(-2)類がある。皿では大宰府Ⅵ(-1b)類がある(760)。別に小形の碗759がある。体部上部内面に圏線、外面に放射状の筆描きの細線で施文する。

井戸215(図54・56)

上述の通り、土壙として掘り下げ途中で分離調査したものである。覆土に縞状化の影響を受ける部分と受けない部分とがあることに気づき、別の遺構と確認した。井戸215の覆土の上部

図55　土壙214・井戸215出土遺物

は縞状化の影響を受けている。覆土は明褐色砂で黒褐色土塊を含んでいる。土壙214の下位に井戸側の痕跡が残っていた。上方にすぼまった状態が見て取れる。抜き跡は確認できなかった。可能性をいえば土壙214がそれと考えられるが、覆土の縞状化が進行する時間を前提とすると、無理がある。

平面形は径1.7m円形、井戸底までの深さは2.2m、その位置で標高は1m強となる。木製の井戸側は痕跡のみで構造は不明、井戸側内は黒褐色粘質土と灰褐色砂の互層で埋まっている。

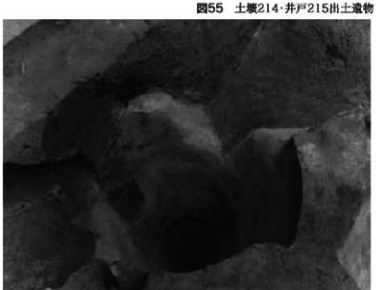


図56　井戸215(北から)

出土遺物(図55)　遺物は掘形埋土、井戸側覆土中からコンテナ2/3箱ほどの分量出土した。細片の資料が殆どである。井戸側内出土遺物はことに極細片の資料である。出土土器のうち1/3は陶磁器で、白磁が大半を占める。次いで1/3が須恵器で奈良時代までの資料である。残り1/3残りが土師器坏皿、瓦等となる。763は土師器皿で、糸切底、口径は96㎜を測る。

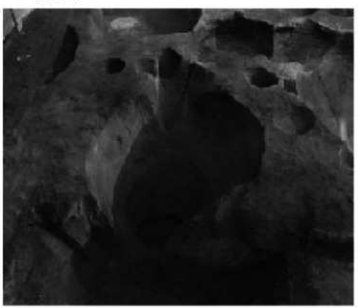


図57　井戸216(北西から)

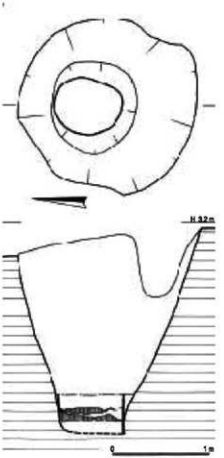


図58　井戸216(1/40)

井戸216(図57･58)

溝17と重複し、それよりも古い。平面形が不整な円形状、断面形が深い鉢状を呈する。径1.9m、井戸底までの深さ2.2m、井戸側は変形するが、径0.6m程を復原できる。井戸側内の底部には灰が堆積していた。この部分に礫、土器片が集中して出土した。井戸底の標高は1.0mである。井戸側木質

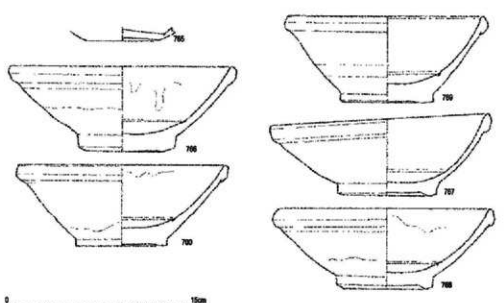


図59　井戸216出土遺物

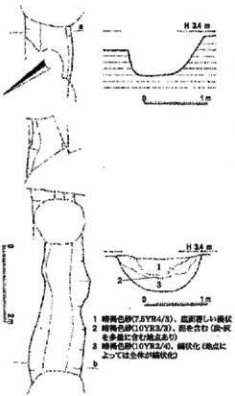


図60　溝126(1/100)

の繊維が縦方向に残っており、木桶であったことが分かる。

出土遺物(図59)　遺物はコンテナ2/3ほどの分量出土した。土師器はごく小量で、全体の2/3が白磁碗、残りの多くも陶磁器類である。

白磁碗の大部分は大宰府Ⅵ類で、大破片の資料があり、底部資料で15個体ある(766·700·769·767·768)。ほかに大宰府Ⅶ類の資料がある。皿は極少量で細片、大宰府Ⅵ類の他にⅨ(1)類かと思われる資料(765)があるが、溝17との重複部のための混入か。

青磁は細片が少量出土した。同安窯系碗および、龍泉窯系碗(大宰府Ⅰ類(2b)の資料がある)

土師器坏皿は痕跡程度で糸切底皿がある。

2　2面の遺構

概要

1面の遺構掘り上げ後、4層上面で遺構検出を行った。さらに遺構検出を続けながら4層を掘り下げた。この過程で確認した遺構までを2面の遺構として記録した。

遺構面の広がり自体、ごく限られたものとなった。調査区中央部では、攪乱と上位の遺構により島状に残るのみである。北西辺部の遺構は1面の遺構である。

遺構には溝(126)の他、小穴、焼土の広がり(233)、遺構132等が散漫に分布する。遺構覆土が鱗状化の影響を受けるものがある。遺構覆土は一般に暗褐色の砂である。以下、主要な遺構について報告する。

溝126(図60·61)

調査区西南辺に沿う方向に走る。調査区内では緩く蛇行している。その方向は北から55°西へ振れる。溝の幅は遺存状態の良好な位置で1.4m、断面形は半球状を呈す。覆土は黒褐色の砂で泥層を挟む。下半部の覆土は流水のあったことを示す島状の堆積を示す。覆土は鱗状化の影響を大きく受ける。深さは0.6mほどである。底面の高さは2.8mを前後する。

図61　溝126(北から)

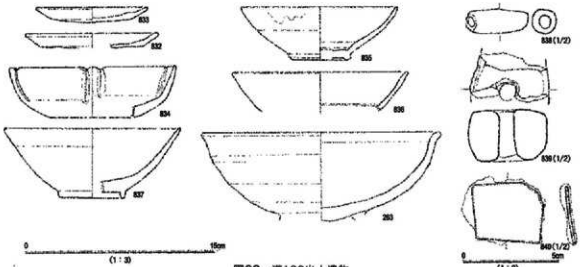


図62　溝126出土遺物

遺物、形状等から考えて、南西に50m離れた第85次地点で検出された溝1614・1666[ii]、さらにその南に接する105次地点の溝999[iii]につながる可能性が大きい。

出土遺物(図62)　遺物はコンテナ2/3程の分量が、覆土中から出土した。

土師器には篦切底坏、大形の高台碗がある。図示する皿は833は糸切底、832は篦切底の資料である。263は高台を貼り付け部から欠くが、大形の碗である。外面は火跳ね状に剥落する。

白磁は小形の碗がある。834は輪花碗である。体部下半から屈曲して立ち上がる器形で、口縁端を切欠きそれに続く体部を縦に外面から押し込んで内面に陰帯を形成する。835・836は碗である。ともに体部が薄い。白磁835は内底面を一段低くなる。838は紡錘形の土錘である。両端部を破損する。839は石鍋を転用した製品である、立方体状に切り取って中央に穿孔する。孔の部分から破損している。840は鉄製品である。長方形の板状で薄い。

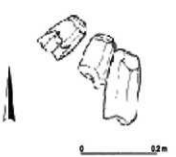


図63　遺構132(1/10)

遺構132(図63)

4層を掘りさげた位置で検出した。後述する土壙列133の上位であり、それの構成土壙の一部であった可能性が残る。鞴羽口が3点、向きを揃えて並んだ状態で出土した。掘形のある可能性を考えて精査したが確認できなかった。

出土遺物(図64)　鞴羽口のみの出土である。非常にもろく形状を保っているのは2点である。先端部から10cm余の部分である。先端部は溶融している。先端部から帯状に変化を生じており、溶融部か

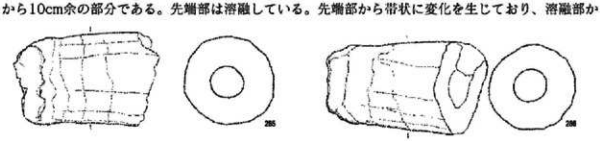


図64　遺構132出土遺物

図65　小穴226(1/30)

ら基部に向かって砂状の付着物のある部位、285では煤状の付着物の残る部位を挟み、灰白色化する部位が認められる。先細りの形状であるが、中央部で285が径72㎜、286が65㎜を測る。孔径はそれぞれ27㎜、25㎜を測る。

小穴226(図65･66)

不整な隅円長方形の小穴である。断面は逆台形状で、長さ0.5m、幅0.4m、深さ0.5mを測る。覆土は黒色の砂で、灰を含んでいるようにもみえる。覆土中から和銅開珎が1点出土した。

出土遺物(図67)　遺物は和銅開珎の他には、弥生土器かと思われる丹塗り土器の細片が1出土したのみである。

図66　小穴226(北から)

504は和銅開珎である。一部に孔を生じている。全面錆に覆われて、銭銘は不明瞭で、一部が判読できるのみである。径は24.6㎜、厚さ1.6㎜、重量は保存処理後で1.6gを測る。

小穴227(図68･69)

小穴226から1mほどの距離に位置する。一部が調査区南東壁にかかる。平面形は不整な円形状で、筒状を呈す。径0.6m、深さ0.5mを測る。覆土は小穴226と同様黒色の砂である。和銅開珎1点が覆土中から出土した。

出土遺物(図68)　遺物は小量出土した。土器には、須恵器の甕以外は細片の資料である。須恵器壷･甕、土師器甕のほかに極細片であるが鞴羽口がある。

506は和銅開珎である。径25.7㎜、厚さ1.6㎜、処理後の重量で1.6gを測る。銭銘はかろうじて判読できる。

図67　小穴226･227出土遺物

須恵器甕761は口縁部の外面まで叩き調整痕が残る。内面の当て具痕は同心円状である。766は鉄製品で、心棒に座金状の板を通しているようである。この資料は錆の状態などから混入したものである可能性が残る。

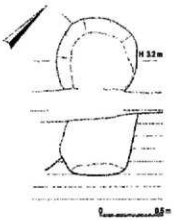


図68　小穴227(1/30)

3　3面の遺構

概要

4層下、地山砂層上で検出した遺構である。調査区東南部を中心に分布する。4層は、奈良時代の遺物を顕著に含み、古墳時代の遺物も出土する。平安時代以降の遺物については痕跡程度の出土であり、調査中の混り込みではないかと考えられる。報告する土壙列(133・234)、遺構178のほかは、焼土・灰層の広がり、土壙、小穴を検出した。4面の広がりはさらに狭くなるが、一方では攪乱底に一部が遺存するものがある。特に土壙列234ではこれが顕著であった。土壙については、土壙列とする遺構に含むべきか否か判別が難しいものが多い。ちなみにこれを離れて分布する土壙は少ない。調査区南隅部に土壙が集中する。暗褐色砂を覆土としている。土壙は楕円形若しくは不整な隅円長方形状で、断面は深い皿状から逆台形状といった形態のもので、深くない。小穴は少数が散漫に分布している。根石などを据えるものはなく、樹根跡状のものである。

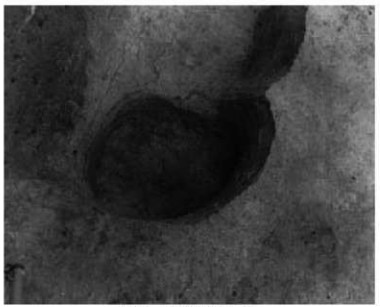


図69　小穴227(北東から)

以上とは別に、特に掘り込みなどの構造を持たないが、焼土・灰層の広がりとして取られられる遺構が分布している(遺構156・157)。遺構178として報告するものはそれの最も明瞭に検出できた遺構である。

土壙列133(図70・71)

調査区の中央部を調査区南東辺に沿う方向に連なる遺構である。ちょうど1区と2区の境界部に位置していたことから調査区南西半部では、北西半部のみの調査にとどまった。また、この部分は調査中調査区の壁が崩落したため記録前に埋没したが、さらに崩落の危険を生じたことから再度の掘りあげは中止した。中央部は近世以降の井戸その他の深い攪乱で破壊されていた。

調査着手時、北東隅部の調査面で赤化した砂層が露出していた。その後、遺構の掘りさげに伴い、壁面に同様な砂層が表れてきたことでそれと分かったものである。断面では、覆土が赤褐色砂質土で粘土塊を含む。覆土は縞状化が顕著に見られ、それの範囲が各土壙の掘形を示す部分もある。4層からの変化は漸移的で、後述する遺構178が明瞭に不整合面を見せていることとは対照的である。調査面では赤褐色砂の分布としてみえているが、掘り下げを進めると個別の掘形に分かれて、土壙の連

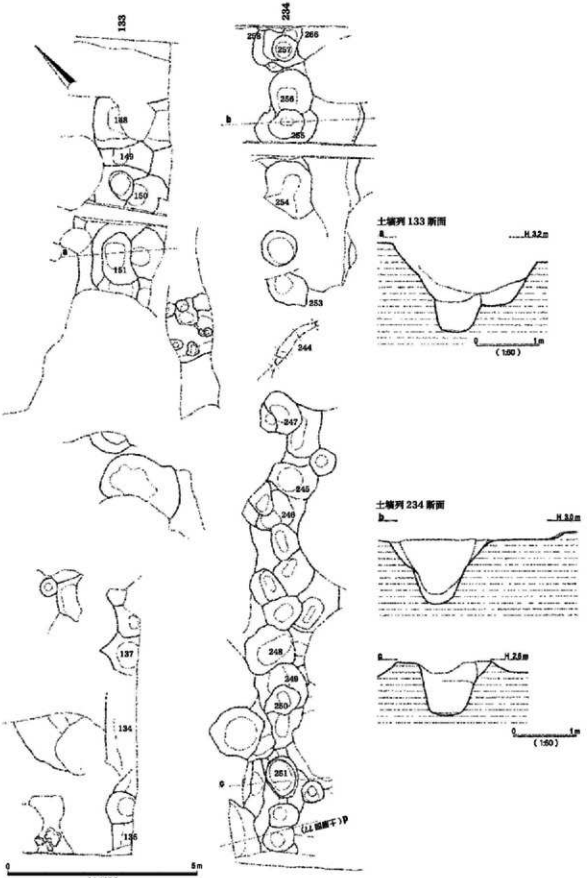


図70　土壙列133・234(1/100)

接したような状態を呈す。この過程で個々の重複関係を考えて確認を繰り返したが、切り合い関係として検出できたものは無い。個々の土壙は底面の形状で楕円形、隅円長方形あるいは円形となる。上部は大きく瀬斗状に開く。長軸のあるものはそれと列の方向が一致している。土壙底面の位置は一列に配列するのではなく、軸に対して左右に振れるものも多い。2基が並列するようなものもある。現況で深さは最も深いもので1.4mを測るものがある。このような例は下部が円筒状に深くなる。おおよその幅として北東端で2.5mを測る。他の大部分では攪乱、上位の遺構により履かされて下部が遺存するのみである。底面の標高をとってみると上下の変異は大きいものの全体として北東方向に低いものが多くなる傾向が見られる。南西端で標高2.4m、北東端部では標高1.8m、あるいはそれを超える位置に底面がある。土壙列としての

図71　土壙列133(南西から)

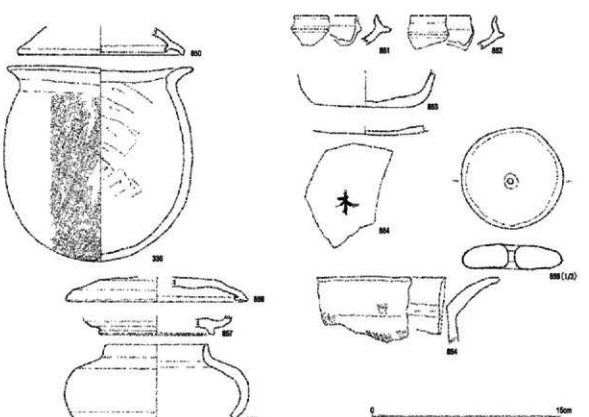


図72　土壙列134出土遺物

軸は南西部の状況が不明瞭であるが、現状では北から42°東へ振れた方向である。

覆土は先述の通り。中央部が特に赤みが強く粘土も多い印象がある。

出土遺物(図72)　遺物は掘り下げ中に各土壙覆土からごく小量づつ出土した。土壙を特定できるものは土壙ごとに遺物を記録した。

土壙134　土師器甕が完形で出土した(336)。口径140㎜、器高155㎜を測る小形の甕である。正立して出土した。850は須恵器坏身である。ほかに黒色土器の細片が出土した。

土壙135　851・852は須恵器坏身である。古墳時代前期の土師器甕細片が含まれる。

土壙149　853は須恵器鉢底部小破片である。黒色土器細片が含まれる。

土壙150　884は土師器坏の底部である。回転篦削り調整を行う外底面に墨書が有る。「木」か。

854は土師器甕口縁部である。この種の甕は各遺構から出土している。855は土製紡錘車である。焼成前に穿孔し孔周辺を丁寧に仕上げている。

土壙151　856は須恵器蓋、857は須恵器高台坏である。

土壙238　土壙238は2区で検出し、位置関係から本遺構の一部とした。858は須恵器無頸壺である。

遺構178(図73・74)

調査区中央部で、両側を攪乱によって破壊され、島状に残った状態で検出した。4層で埋められるようにして、長さ3m、幅1mの窪みに灰層が堆積していた。窪みの東半部は一段低くなり、底面が顕著な凹凸面となっている。この部分の複数箇所に焼土が残されている。灰層は黒褐色、砂混りで指頭大から卵大の鉄滓のほか、多量の薄片を含んでいる。同様な状況は遺構156でも見られた。鍛冶に関わる遺構であろうが、直接作業の場であったのか否かは、構築物、遺物等確認できなかった。あるいは廃棄物の捨て場のようなものであったことも考えられる。いずれにせよ灰層が形成され手間をおかず4層で覆われることとなったものであろう。

出土遺物(図75)　遺構178とする遺物の大半は、灰層を覆うにぶい黄褐色砂から暗褐色砂にかけて出土したもので、むしろ4層の遺物とするべきものである。図示するうちで849のみ灰層中の出土で

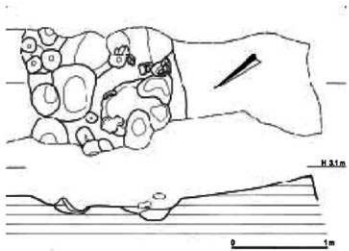


図73　遺構178(1/40)

ある。

843は土師器高台坏である。内外面に篦磨き調整を行なう。

842·841·844は須恵器である。845·846は土師器甕である。845は、体部外面に篦削り調整を行う。846の口縁部はほぼ水平方向に外反する。胎土は砂質でやや異質の土器である。

849は土師質の土器である。内外面に叩き目の様な平行する条線が残る。一部がおそらく被熱のため溶融している。

847は弥生土器壺口縁部である。上掛けを行った痕跡がある。

848·384は同一個体あるいは器形の口縁部と基部の小破片資料である。外面は縦方向の刷毛目調整、内面は刷毛目調整後、縦方向の篦削り調整を行なう。基部の内外面は周回方向の篦削り調整を行っている。基部近くに断面台形の突帯を貼り付ける。小破片からの復原であるが、口径403㎜、底径322

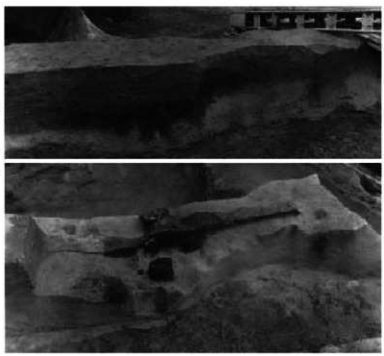


図74　遺構178(北西から)

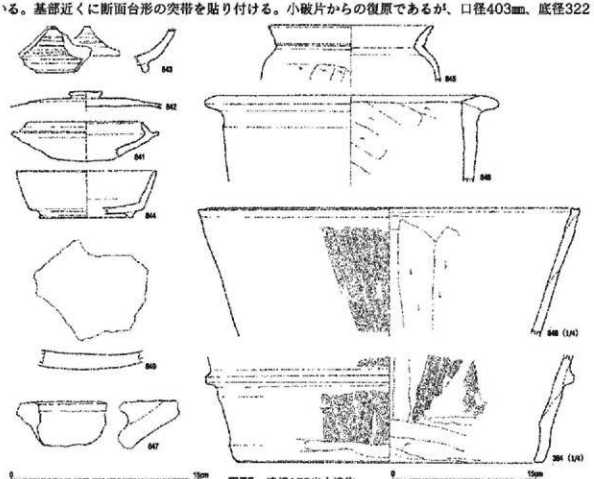


図75　遺構178出土遺物

図76　土壙列234土層(南西から)

図77　土壙列234土層断面d(1/40)

mmとなり非常に大きい。器厚は薄く、基部で最大14mm、口縁付近では8mmとなる。円筒埴輪の様な器形を復原できる。

土壙列234(図70·76·77)

土壙列133と平行し南東側を走る。形状、覆土などの特徴が土壙列133と同性状を示す遺構である。上位の遺構調査後の全体写真に赤褐色の帯状の土層として表れている。やはり調査区中央部で、大規模な攪乱にかかっているが、攪乱底以下に遺存する部分があり。全体の形状を知ることができる。

南のやや窪れた位置から遺構に向かって一段低くなっている。底面の高さは土壙ごとに高低差が大きいが、やはり全体としては北東に低い。南西部で標高2.2mから2.0m、北東部で2.1mから2.3m前後である。土壙列の方向は北から43°東へ振れており、土壙列133とほぼ平行しているといえる。

出土遺物(図78)　土壙列133同様遺物は掘り下げ中に各土壙覆土からごく少量づつ出土した。土壙を特定できるものは土壙ごとに遺物を記録した。なお、上部覆土の掘り下げ中にも遺物が出土した。

土壙246　859は須恵器甕である。

土壙247　土師器高坏862は坏部の細片資料である。内外面を篦磨き調整を行い、暗文を加える。860は須恵器坏蓋、861は高坏脚である。

土壙248　土師器864は甕か、口縁は湾曲しながら立ち上がる。865は鉄釘であろうか、両端を欠く。

土壙253　866は須恵器蓋である。

土壙254　867は土師器碗、868は須恵器壷である。

須恵器869·土錘870は覆土上部の掘り下げ中出土した。

調査区内出土遺物(図79)

報告遺構以外に、整理中抽出した遺物について報告する。

上段に掲げるのは墨書土器である。近隣の85次調査地点と比べると、出土量が極少ない。883は土師器高坏である。内外面に篦磨き調整を行なう。外底面中央に墨書が残る。○に十か(攪乱168)。881は白磁碗で、高台内外底面に「大」が残る(近世井戸176)。882は白磁碗で同じく高台内に「□綱」が残る(攪乱168)。880は白磁碗である。高台内外底面にのこる墨書は花押様である(土壙93)。879は白磁皿である。平底の外底面に墨書が残るが判読できない(土壙212)。

瓦は、平瓦、丸瓦の細片資料が複数遺構から少量づつ出土するのが一般的である。須恵器で凸面に

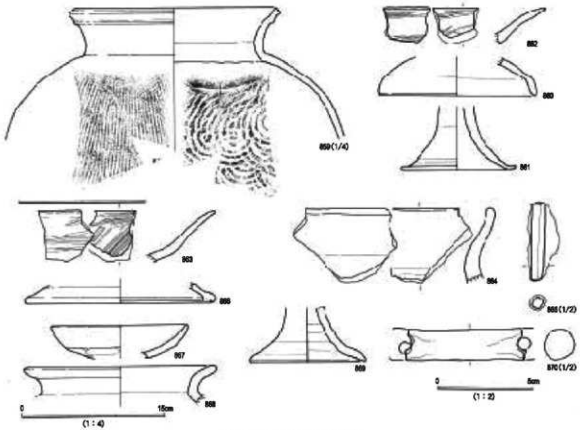


図78　土壙列234出土遺物

荒い叩き目調整を行う資料がある。軒瓦は383のみを確認した。383は攪乱162から出土した。小破片資料である。大宰府分類691Aa型式に分類される資料である。同型式の資料は大宰府のほか、筑紫野市杉塚廃寺で出土している。(1)

中段に示すのは、暗文を施す奈良時代の土師器である。いずれもごく細片の資料で、小形、精製の資料である。885は坏蓋である。端部を折り返して肥厚させる。886・887は皿か。886は体部、887は底部の資料である。内底面に螺旋状の暗文、外底面は浅い凹凸が残る。これらの資料は、他の土師器資料より全体として暗い色調である。類例は博多133次調査で出土している。また、離れて高畑遺跡第8次調査でも出土している。(6)

下段に示す888は、底部の細片資料で、壺形埴輪かと思われる資料である。底部を切り欠いたような器形で、外方に広く広がりながら立ち上がる体部である。内面には指頭圧痕が顕著である。

注

(1) 大庭康時/編1997『博多57』福岡市埋蔵文化財調査報告書第522集
(2) 屋山洋/編2002『博多82』福岡市埋蔵文化財調査報告書第708集
(3) 鐘本正志氏教示。
栗原和彦/編2000『大宰府史跡出土軒瓦・叩打成文字瓦型式一覧』九州歴史資料館
(4) 柳沢一男/編1983『板付周辺遺跡調査概報(10)』福岡埋蔵文化財調査報告書第115集
杉山富雄/編2003『博多93』福岡埋蔵文化財調査報告書第764集

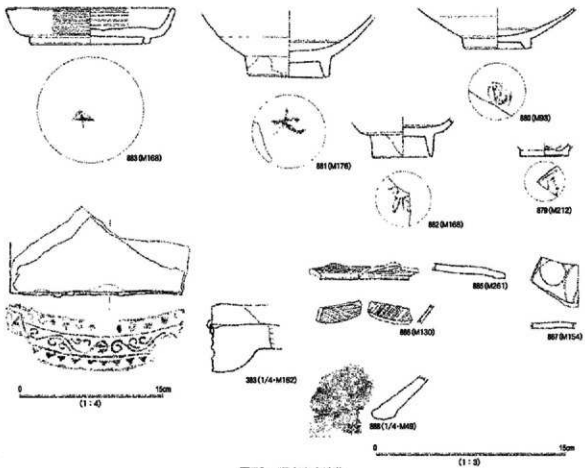


図79　調査出土遺物

Ⅲ　おわりに

第126次地点の遺構を時期別に整理すると以下のようになる。

1期　15～16世紀　染付が出土する。溝17・37がある。溝17・37はおそらく調査区外でつながり、直角に曲がって一端が開放された形状となる。何らかの区画を考えられよう。

2期　12～13世紀　出土陶磁器は白磁を主体とする遺構が大半で、青磁を出土する遺構は限られる。灰を大量に投棄する土壙、井戸も大半この時期に含まれよう。

3期　10世紀　4層を掘り込む遺構で、覆土が縞状化している。溝126がある。この溝は、現在の町割と似た方向に走り、南西に位置する第85次・105次調査地点につながる。

4期　4層下の遺構。4層の時期が問題となる。今回報告では資料を提示できなかった。整理中検討したところでは、奈良時代までの遺物を出土する。土壙列133・234は、4層下の遺構と捉えていたが、上位遺構調査後の全体写真を検討すると、赤褐色の覆土が帯状に観察できる(234)。このような点から4層とした部位は土壙列の覆土上部であったことも考えられる。とすると、土壙列と灰層の広がりとして捉えた遺構158ほかについては、奈良時代をあまりくだらない時期の遺構であると考えることができる。

土壙列については調査区外へ方向をもって広がる遺構であり、それの性格については、今後の調査成果を待ちたい。

遺構	遺物番号	種別	器種	特記	胎土・色調	調整	焼成	口径	器高	底径	備考	残存状態
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	54	94	19		完存
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	39	59	5		完存
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	74	59	15		口縁の一部を欠く
	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	112	75	28		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]		41			[illegible]
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]						口縁部の破片
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	34	47	14		口縁の一部を欠く
	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	56	43	17		[illegible]
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	72	55	18		[illegible]
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	136				口縁部の破片
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]							口縁部の破片
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	112	46	25		[illegible]
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]		58			破片
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]		103			破片
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]						口縁部の破片
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]						口縁部の破片
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]		104			[illegible]
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	318				[illegible]
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]					[illegible]	[illegible]
	[illegible]	[illegible]			[illegible]	[illegible]						口縁部の破片
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]		58			[illegible]
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	76	58	14		[illegible]
	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	190	66	25		口縁の一部を欠く
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	94	73	14		[illegible]
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	53	66	11		[illegible]
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	137	99	36		[illegible]
	[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	144				[illegible]

遺構	遺物番号	器種	特記	胎土・色調・焼成	調整・技法	法量	遺存度
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	胎土：やや粗末性、細砂〜粗砂を含む [illegible] ／色調：やわらかい橙色 [illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]

番号	遺構名	種別	形態・文様の特徴・技法・施釉	釉薬・調整	色調	口径	底径	器高	残存率	備考
1-46	二郎原	白磁皿	肥前系。口縁端部を玉縁状に作り出す。体部は内湾気味に立ち上がる。	透明釉。	灰白	11.6	5.4	3.2	口縁～体部1/4	18世紀後半
1-47	二郎原	白磁皿	肥前系。口縁端部を玉縁状に作り出す。体部は内湾気味に立ち上がる。	透明釉。	灰白	12.0	6.0	3.5	口縁～体部1/3	18世紀後半
1-48	二郎原	白磁皿	肥前系。口縁端部を玉縁状に作り出す。体部は内湾気味に立ち上がる。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	12.4	6.2	3.8	口縁～体部1/2	18世紀後半
1-49	二郎原	白磁皿	肥前系。口縁端部を玉縁状に作り出す。体部は内湾気味に立ち上がる。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	12.8	6.4	4.0	ほぼ完形	18世紀後半
1-50	二郎原	白磁皿	肥前系。口縁端部を玉縁状に作り出す。体部は内湾気味に立ち上がる。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	13.2	6.6	4.2	ほぼ完形	18世紀後半
1-51	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。	透明釉。	灰白	10.8	5.2	3.6	口縁～体部1/3	18世紀後半
1-52	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	11.2	5.4	3.8	口縁～体部1/2	18世紀後半
1-53	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	11.6	5.6	4.0	ほぼ完形	18世紀後半
1-54	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	12.0	5.8	4.2	ほぼ完形	18世紀後半
1-55	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	12.4	6.0	4.4	ほぼ完形	18世紀後半
1-56	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	12.8	6.2	4.6	ほぼ完形	18世紀後半
1-57	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	13.2	6.4	4.8	ほぼ完形	18世紀後半
1-58	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	13.6	6.6	5.0	ほぼ完形	18世紀後半
1-59	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	14.0	6.8	5.2	ほぼ完形	18世紀後半
1-60	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	14.4	7.0	5.4	ほぼ完形	18世紀後半
1-61	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	14.8	7.2	5.6	ほぼ完形	18世紀後半
1-62	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	15.2	7.4	5.8	ほぼ完形	18世紀後半
1-63	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	15.6	7.6	6.0	ほぼ完形	18世紀後半
1-64	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	16.0	7.8	6.2	ほぼ完形	18世紀後半
1-65	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	16.4	8.0	6.4	ほぼ完形	18世紀後半
1-66	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	16.8	8.2	6.6	ほぼ完形	18世紀後半
1-67	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	17.2	8.4	6.8	ほぼ完形	18世紀後半
1-68	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	17.6	8.6	7.0	ほぼ完形	18世紀後半
1-69	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	18.0	8.8	7.2	ほぼ完形	18世紀後半
1-70	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	18.4	9.0	7.4	ほぼ完形	18世紀後半
1-71	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	18.8	9.2	7.6	ほぼ完形	18世紀後半
1-72	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	19.2	9.4	7.8	ほぼ完形	18世紀後半
1-73	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	19.6	9.6	8.0	ほぼ完形	18世紀後半
1-74	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	20.0	9.8	8.2	ほぼ完形	18世紀後半
1-75	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	20.4	10.0	8.4	ほぼ完形	18世紀後半
1-76	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	20.8	10.2	8.6	ほぼ完形	18世紀後半
1-77	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	21.2	10.4	8.8	ほぼ完形	18世紀後半
1-78	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	21.6	10.6	9.0	ほぼ完形	18世紀後半
1-79	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	22.0	10.8	9.2	ほぼ完形	18世紀後半
1-80	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	22.4	11.0	9.4	ほぼ完形	18世紀後半
1-81	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	22.8	11.2	9.6	ほぼ完形	18世紀後半
1-82	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	23.2	11.4	9.8	ほぼ完形	18世紀後半
1-83	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	23.6	11.6	10.0	ほぼ完形	18世紀後半
1-84	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	24.0	11.8	10.2	ほぼ完形	18世紀後半
1-85	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	24.4	12.0	10.4	ほぼ完形	18世紀後半
1-86	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	24.8	12.2	10.6	ほぼ完形	18世紀後半
1-87	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	25.2	12.4	10.8	ほぼ完形	18世紀後半
1-88	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	25.6	12.6	11.0	ほぼ完形	18世紀後半
1-89	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	26.0	12.8	11.2	ほぼ完形	18世紀後半
1-90	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	26.4	13.0	11.4	ほぼ完形	18世紀後半
1-91	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	26.8	13.2	11.6	ほぼ完形	18世紀後半
1-92	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	27.2	13.4	11.8	ほぼ完形	18世紀後半
1-93	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	27.6	13.6	12.0	ほぼ完形	18世紀後半
1-94	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	28.0	13.8	12.2	ほぼ完形	18世紀後半
1-95	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	28.4	14.0	12.4	ほぼ完形	18世紀後半
1-96	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	28.8	14.2	12.6	ほぼ完形	18世紀後半
1-97	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	29.2	14.4	12.8	ほぼ完形	18世紀後半
1-98	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	29.6	14.6	13.0	ほぼ完形	18世紀後半
1-99	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	30.0	14.8	13.2	ほぼ完形	18世紀後半
1-100	二郎原	染付	肥前系。口縁端部に二重圏線。体部外面に草花文。高台は削り出し。	透明釉。	灰白	30.4	15.0	13.4	ほぼ完形	18世紀後半

動詞	語幹	語尾	例句		例文(訳)・解説・活用形	活形・語型	意味	二段・一段		五段・ラ変・サ変・カ変		連体修飾
								連用形	終止形	連体形	已然形	
		下一段型	得る	心得る	動主：修員、時間、／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	下一段型（ア段・イ段・エ段）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	得	得る	得る	得る時
		下一段型	入る	心得る	動主：修員、時間、／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	下一段型（ア段・イ段・エ段）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	入	入る	入る	入る時
		下一段型	出る	心得る	動主：修員、時間、／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	下一段型（ア段・イ段・エ段）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	出	出る	出る	出る時
		下一段型	居る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	下一段型（ア段・イ段・エ段）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	居	居る	居る	居る時
		下一段型	着る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	下一段型（ア段・イ段・エ段）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	着	着る	着る	着る時
		下一段型	寝る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	下一段型（ア段・イ段・エ段）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	寝	寝る	寝る	寝る時
		下一段型	見る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	下一段型（ア段・イ段・エ段）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	見	見る	見る	見る時
		五段型	取る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	五段型（カ行・ガ行・サ行・タ行・ナ行・バ行・マ行・ラ行）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	取	取る	取る	取る時
		五段型	乗る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	五段型（カ行・ガ行・サ行・タ行・ナ行・バ行・マ行・ラ行）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	乗	乗る	乗る	乗る時
		五段型	入る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	五段型（カ行・ガ行・サ行・タ行・ナ行・バ行・マ行・ラ行）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	入	入る	入る	入る時
		五段型	帰る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	五段型（カ行・ガ行・サ行・タ行・ナ行・バ行・マ行・ラ行）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	帰	帰る	帰る	帰る時
		五段型	走る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	五段型（カ行・ガ行・サ行・タ行・ナ行・バ行・マ行・ラ行）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	走	走る	走る	走る時
		五段型	知る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	五段型（カ行・ガ行・サ行・タ行・ナ行・バ行・マ行・ラ行）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	知	知る	知る	知る時
		五段型	参る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	五段型（カ行・ガ行・サ行・タ行・ナ行・バ行・マ行・ラ行）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	参	参る	参る	参る時
		五段型	切る	心得る	動主：やや敬意性、対象、／修飾：心得（名詞）。／修飾：そそくさかい・時分（助詞「から」参照）。	五段型（カ行・ガ行・サ行・タ行・ナ行・バ行・マ行・ラ行）の動詞語幹に「る」を接続。	周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。／外国語：周辺方向の物・事の獲得に関する動作・状態を表す。	周辺	切	切る	切る	切

遺構名	遺物番号	出土地点	器種	特記	法量・調整	色調	胎土・焼成	残存率	備考
	7号	白磁	皿	胎土：精良、／釉：素地面に黄みのうすい灰色(2.5Y 8.5/1.5 マメイド リー)、施釉面は明るい灰みの黄(2.5Y 7.1/1 砂色)／釉：薄く全面に掛ける、畳付のみ露出。／焼成：良好。	外面：内面回転ナデ後高台貼付、／外底面：糸切り後ナデ。／内面：施釉。	黄灰	1/3	完	一括遺物
	7号	白磁	皿	胎土：精良、／釉：素地面に黄みのうすい灰色(2.5Y 8.5/1.5 マメイド リー)、施釉面は明るい灰みの黄(2.5Y 7.1/1 砂色)／釉：薄く全面に掛ける、畳付のみ露出。／焼成：良好。	外面：内面回転ナデ後高台貼付、／外底面：施釉後、やや上げ底状に削り出し。／内面：施釉。	黄灰	1/2	完	一括遺物
	7号	白磁	皿	胎土：精良、／釉：素地面に黄みのうすい灰色(2.5Y 8.5/1.5 マメイド リー)、施釉面は明るい灰みの黄(2.5Y 7.1/1 砂色)／釉：薄く全面に掛ける、畳付のみ露出。／焼成：良好。	外面：内面回転ナデ後高台貼付、／外底面：施釉後、やや上げ底状に削り出し。／内面：施釉。	黄灰	1/2	完	一括遺物
	7号	白磁	碗/大半端荷重	胎土：精良、／釉：素地面に灰みのうすい灰色(5Y 8/1 ライトグレー)、施釉面は明るい灰色(N7 ライトグレー)／焼成：良好。	外面：体部中位まで回転削調整。／内底面：施釉。	灰黄	1/2	口縁部～体部	一括遺物
	7号	白磁	碗/大半端荷重	高台内面に施釉時の指ふき跡。	胎土：精良、／釉：素地面に灰色(5Y 8/1 ライトグレー)、施釉面は灰みの黄(2.5Y 8.5/1.5 マメイドリー)／釉：高台付近まで施す。／焼成：良好。	灰黄	1/2	口縁部～体部	一括遺物
	7号	白磁	碗/大半端荷重	胎土：精良、／釉：素地面に灰色(5Y 8/1 ライトグレー)、施釉面は明るい灰色(N7 ライトグレー)／焼成：良好。	外面：体部中位まで回転削調整。／内底面：施釉。	灰黄	1/3	口縁部～体部	一括遺物
	7号	白磁	碗/大半端荷重	胎土：やや粒状性、／釉：素地面に灰みのうすい灰色(5Y 8/1 ライトグレー)、施釉面は明るい灰色(N7 ライトグレー)／焼成：良好。	外面：体部中位まで回転削調整。／内底面：施釉。	灰黄	1/3	口縁部～体部	一括遺物
	7号	白磁	碗/大半端荷重	胎土：やや粒状性、／釉：素地面に灰みのうすい灰色(5Y 8/1 ライトグレー)、施釉面は明るい灰色(N7 ライトグレー)／焼成：良好。	外面：内面回転ナデ後高台貼付、／外底面：施釉後、やや上げ底状に削り出し。／内面：施釉。	灰黄	1/3	口縁部～体部	一括遺物
	7号	白磁	皿	胎土：精良

[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	117				[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]						[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]						[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	112	75	35		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	190				[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	190				[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]						[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	400				[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]						[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	30	17	13		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	137	75	56		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	130	69	51		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	130	75	66		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]				[illegible]	34.8	2.1		[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	170	60	15		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	97	75	18		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	98	75	14		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	120		32		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	118		36		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	83	15	12		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	31	69	13		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	118	111	28		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	134				[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	110				[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	82	75	12		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]		[illegible]	[illegible]	[illegible]	98	18	22		[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]	82	75	15	[illegible]	[illegible]

遺構番号	図版番号	種別	形態・文様の特徴・技法・属性	法量・数値	色調・胎土・焼成・残存率・備考	写真図版	挿図	写真図版	遺物番号
							口径	底径	
	1号	二彩釉陶器	円形皿	底径:推定6.0cm	胎土:精良、緻密な粘土。／釉薬:マダムと黄釉(5YE 8/3 比)で施す。	第9号	45		9
	1号	二彩釉陶器	高台皿片	底径:推定6.0cm	胎土:精良、緻密な粘土。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 7/6 色)。	第9号	116	109	35
	1号	二彩釉陶器	玉縁皿	底径:推定6.0cm	胎土:精良、緻密な粘土。／釉薬:やわらかい黄釉(5YE 8/3 比)で施す。	第9号	130		35
	1号	緑釉陶器	小型壺	底径:推定6.0cm	胎土:白色粒子を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10GY 5/6 比)で施す。	第9号	131	20	44
住居	2号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、緻密。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	95	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	96	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	97	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	98	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	99	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	100	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	101	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	102	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	103	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	104	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	105	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	106	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	107	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	108	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	109	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	110	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	111	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	112	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	113	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	114	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	115	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	116	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	117	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	118	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	119	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	120	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	121	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	122	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	123	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	124	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	125	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	126	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	127	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	128	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	129	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	130	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	131	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	132	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	133	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	134	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	135	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	136	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	137	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	138	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	139	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	140	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	141	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	142	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	143	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	144	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	145	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	146	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	147	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	148	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	149	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	150	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	151	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	152	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	153	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	154	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	155	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	156	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	157	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	158	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	159	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	160	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	161	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	162	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	163	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	164	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	165	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	166	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	167	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	168	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	169	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	170	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	171	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	172	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	173	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	174	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	175	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	176	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	177	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	178	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	179	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	180	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	181	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	182	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	183	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	184	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	185	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	186	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	187	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	188	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	189	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	190	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	191	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	192	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	193	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	194	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	195	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	196	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	197	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	198	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	199	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	200	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	201	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	202	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	203	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	204	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	205	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	206	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	207	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	208	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	209	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	210	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	211	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	212	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	213	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	214	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	215	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	216	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	217	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	218	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	219	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	220	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	221	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	222	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	223	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	224	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	225	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	226	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	227	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	228	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	229	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい緑釉(10G 5/6 比)で施す。	第9号	230	60	11
	3号	二彩釉陶器	高台皿底	底径:推定6.0cm	胎土:やや粘土質、粘土中に小石を含む。／釉薬:やわらかい黄釉(2.5Y 8/3 比)で施す。	第9号	231	60	11

遺構番号	遺物番号	図版番号	種別	器種	特徴	法量・調整	備考	残存率	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	備考
	7	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	8	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	9	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	10	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	11	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	12	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	13	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	14	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	15	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	16	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	17	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	18	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	19	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	20	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	21	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	22	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	23	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	24	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	25	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	26	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	27	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	28	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	29	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	30	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	31	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	32	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	33	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	34	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	35	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	36	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	37	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	38	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	39	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	40	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	41	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	42	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	43	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	44	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	45	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	46	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	47	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	48	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	49	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	50	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	51	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	52	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	53	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	54	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	55	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	56	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	57	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	58	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	59	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	60	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	61	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	62	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	63	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	64	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	65	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	66	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	67	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	68	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	69	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	70	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	71	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	72	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	73	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	74	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	75	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	76	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	77	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	78	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	79	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	80	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	81	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	82	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	83	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	84	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	85	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	86	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	87	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	88	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	89	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	90	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	91	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	92	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	93	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	94	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	95	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	96	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	97	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	98	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	99	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	
	100	8	土師器	坏	体部から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がる。口縁部は丸く収める。	底部から体部にかけて回転ヘラケズリ。	口縁部～体部	1/4	(12.0)	(3.0)		細砂粒を含む	良好	橙色	

抄録

書名	はかた 博多
副書名	博多遺跡群第126次調査報告
巻次	101
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	847
編著者名	杉山富雄
編集機関	福岡市教育委員会
発行機関	福岡市教育委員会
発行年月日	20050331
作成法人ID	
郵便番号	810-8621
電話番号	092-711-4667
住所	福岡市中央区天神1丁目8番1号
遺跡名	はかたいせきぐん 博多遺跡群
遺跡所在地	ふくおかしはかたくてんやまち43・44ばんち 福岡市博多区店屋町 43・44番地
市町村コード	40132
遺跡番号	00121
北緯	333532 (日本測地系)
東経	1302445 (日本測地系)
調査期間	20000823～20001201
調査面積	360
調査原因	共同住宅建築
種別	散布地／集落
主な時代	奈良／平安／戦国
遺跡概要	集落－平安－井戸4＋溝3＋土壙＋柱穴－土師器坏皿＋白磁＋陶器＋銅銭/－戦国＋溝1＋土師器坏皿＋染付＋備前系陶器/生産遺跡－鍛冶跡？/散布地－古墳＋土師器＋須恵器＋埴輪?/奈良－土師器＋須恵器
特記事項	
備考	

博多 101

— 博多遺跡群第126次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書　第847集

2005年3月31日

編集・発行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷　松影堂印刷株式会社
福岡市博多区吉塚5丁目13番40号